

「北海道衛星」の拠点として本格的に活用される旧大樹駅舎



## 町との連携強化へ 製品組み立て工場、営業拠点に

【大樹】道内技術者による人工衛星「大樹」の開発・製造を目指す株式会社「北海道衛星」(本社大樹町、社長・佐鳥新北海道工業大学助教授)が、10月から町寿通1の旧大樹駅舎を本格的に活用する。同月1日には同駅舎前で佐鳥社長、伏見賢夫町長ら地元関係者による除幕式が行われ、同社と大樹町をさらに強く結び付ける拠点として機能する。(松村智裕)

### 来月1日に除幕式

同社は昨年12月に設立。2007年度中の一「大樹」1号機打ち上げを目標とし、衛星に搭載した「ハイパスベクトルカメラ」で農作物の生育観測などを行う。来年9月には、宇宙航空研究開発機構(JAXA、本部東京)が打ち上げるロケットに佐鳥社長の研究グループが超小型の実験衛星を搭載する方向で開発を進めている。

同社は町に本社を置いて、研究・開発は道工大を主体に行うた。同社は町に本社を置いて、研究・開発は道工大を主体に行うた。同社は町に本社を置いて、研究・開発は道工大を主体に行うた。

同社は町に本社を置いて、研究・開発は道工大を主体に行うた。同社は町に本社を置いて、研究・開発は道工大を主体に行うた。

# 旧大樹駅舎 「北海道衛星」が本格活用

【大樹】道内技術者による人工衛星「大樹」の開発・製造を目指す株式会社「北海道衛星」(本社大樹町、社長・佐鳥新北海道工業大学助教授)が、10月から町寿通1の旧大樹駅舎を本格的に活用する。同月1日には同駅舎前で佐鳥社長、伏見賢夫町長ら地元関係者による除幕式が行われ、同社と大樹町をさらに強く結び付ける拠点として機能する。(松村智裕)

「1年後をめどに、ハイパスベクトルカメラなどの製品を組み立てる工場や営業活動の拠点として」としている。今後1年間は職員が常駐せず、同社製品や活動内容、町の宇宙航空関連の取り組みを紹介する展示ブースとして使われる予定。当面は各種写真ハ

ネルが駅舎内に飾られる。伏見町長は「町として協力を惜しまない」と、同社との連携に積極的に取り組む考え。佐鳥社長は「駅舎利用をきっかけに、地元との交流をより深めていきたい」と話している。